

暗所閾値電位の臨床応用：錐体-杆体ジストロフィ および糖尿病性網膜症

著者	齋藤 友護
著者別表示	Saito Yugo
雑誌名	平成5(1993)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	1993
ページ	2p.
発行年	2018-06-07
URL	http://doi.org/10.24517/00066597



暗所閾値電位の臨床応用-錐体-杆体ジストロフィおよび糖尿病性網膜症-

Research Project

All

Project/Area Number

05771392

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Ophthalmology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

齋藤 友謙 金沢大学, 医学部・附属病院, 助手 (10242554)

Project Period (FY)

1993

Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

Budget Amount *help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

暗所閾値電位 / 網膜電図 / 錐体-杆体ジストロフィ / 糖尿病網膜症

Research Abstract

我々は平成4年度までに暗所閾値電位(scotopic threshold response,STR)記録装置を開発することにより、人眼STRの記録に成功し、眼底白点症、無betaリボ蛋白血症などの病眼においてその所見を検討してきた。STRは杆体系の網膜内層に由来する網膜電図(electroretinogram,ERG)の一成分であり、自覚的暗順応絶対閾値に極めて近い閾値を有する唯一のERG応答であることから、STRを指標とすれば夜盲性疾患あるいは網膜内層に障害を来す可能性のある疾患において客観的に杆体系の網膜内層の障害の有無およびその程度を評価することが可能であると考えられる。本年度我々は錐体-杆体ジストロフィおよび糖尿病網膜症におけるSTRの所見を検討した。錐体-杆体ジストロフィでは錐体の障害は必発であるが杆体の障害の程度は様々であるとされている。本症においてはこれまでERGs波を用いて杆体系の機能の評価が行われてきたが、STRを指標として加えることにより従前の検査法では杆体系の障害ができなかった本症症例においてSTRに異常を呈する症例があることがみだされ、本症の発症機序および病態を考察する上でSTRは非常に有用であると考えられた。糖尿病網膜症においては、STRと同じく網膜内層に由来するERG応答である律動様小波が早期より減弱あるいは消失することが当教室でみだされ既に臨床で広く応用されている。本症においてSTR所見を検討したところ、律動様小波が正常であるのにSTRが減弱していた症例および律動様小波が減弱しているのにSTRが正常である症例がみだされたことから、本症における網膜内層の障害には複数のパターンがあることが示唆された。(未発表)

Report (1 results)

1993 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Publications (1 results)

[Publications] 齋藤友護ら: "暗所閾値電位(scotopic threshold response,STR)を用いた暗所視機能の他覚的検討-錐体ジストロフィー" 厚生省特定疾患網膜脈絡膜萎縮症調査研究班報告書 平成4年度研究報告書. 118-121 (1993) ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05771392/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2018-06-07